

メタヴァースやミラーワールドといった仮想空間や現実空間をデジタル化した鏡像世界が現実のものとなり、いよいよ実装されつつある現在、さまざまな場面で、私たちはリアルなものやヴァーチャルなものが共存する世界を生きるようになっていきます。

たとえば、現実世界の建築が仮想世界でのシミュレーションにもとづいて設計されるなど、仮想世界が現実を模倣するだけではなく、現実が仮想世界から触発されるといった、現在の多層世界のあり方は、両者を明確に切り分けることができなくなっています。

リアルとヴァーチャルは、こちら側とあちら側のような対概念なものではなく、その間の無数のグラデーションの中に、それぞれのバランスで共存するものとなっているのではないのでしょうか。リアルとヴァーチャルの間で、自分の居心地のいいバランスの取り方を、それぞれが設定していくことが求められるようになるのかもしれませんが。

この展覧会では、私たちが現実とシームレスに、もうひとつの現実としての拡張世界を持つようになった現在(未来)において、多層世界時代の現実のあり方はどう変化するのでしょうか。この展覧会では、これからの私たちのリアリティのあり方とは、アクチュアルなものとは何かを考えてみたいと思います。

In the present age, virtual worlds such as the metaverse, and real environments digitalized into mirror worlds, are increasingly defining the reality we live in, and creating all kinds of situations in which real and virtual things exist side by side.

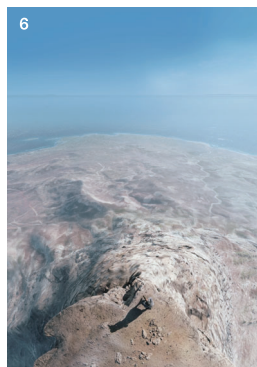
Some architecture in the real world is designed based on simulations in virtual spaces, which is just one example of how the virtual not only imitates the real, but reality is also inspired by the virtual world. Our living environment has become a multi-layered affair that no longer allows us to make a clear distinction between both.

Real and virtual are not opposing concepts meaning “this side” and “that side,” but they refer to things that exist in countless gradations between the poles, each at a place with its own specific balance. What is required from us now, is perhaps to find and establish a balance for ourselves between real and virtual, at a place where we feel most comfortable.

So what kinds of transformations will “reality” undergo in the present (or future) age, where we have augmented worlds that seamlessly connect to reality as “alternative realities”? This exhibition aims to explore what reality may look like for us in the future, and how our definition of “actuality” may change.

多層世界とリアリティのよりどころ

Viewpoints of Reality in the Multi-layered World



東京オペラシティアートギャラリーとの相互割引

ICC 受付で、同時期に開催中の東京オペラシティ アートギャラリー企画展の入場券をご呈示いただくと、本展に団体料金でご入場いただけます。また東京オペラシティ アートギャラリー企画展にご入場の際に、本展入場券をご呈示いただいた場合も団体料金でご入場いただけます(他の割引との併用不可、ご本人様のみ1回限り有効)。

同時開催の展示

「ICC アニュアル 2022 生命的なものたち」
 会期：2022年6月25日(土)～2023年1月15日(日)
 入場料：一般 500円(400円)、大学生 400円(300円)、高校生以下無料

新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、お客様ならびにスタッフの健康と安全を考慮し、ご来館される全てのお客様に以下の対応のご協力をお願い申し上げます。

下記に該当する方は、ご入館をお断りさせていただきます。

- ・ 37.5度以上の発熱症状がある方(入館時にサーモカメラ及び、非接触型体温計での体温計測を実施します)。
- ・ 過去2週間以内に、感染拡大地域や国への渡航をされた方。
- ・ 発熱、咳、鼻水、倦怠感の症状が続くなど、体調不良の方。
- ・ マスクを着用されていない方。

最新情報はICCウェブサイト(<https://www.ntticc.or.jp/>)などでお知らせします。



<https://hyper.ntticc.or.jp/>

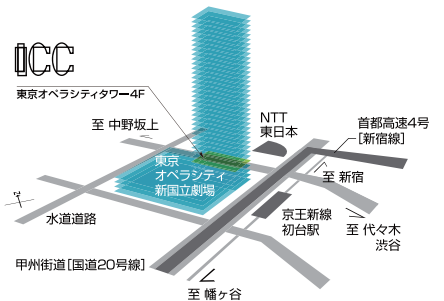


<https://www.ntticc.or.jp/>

NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]

〒163-1404 東京都新宿区西新宿3-20-2
 東京オペラシティタワー 4階(京王新線初台駅東口から徒歩2分)
 お問い合わせ：☎0120-144199
 URL: <https://www.ntticc.or.jp/>

Tokyo Opera City Tower 4F, 3-20-2 Nishishinjuku, Shinjuku, Tokyo, 163-1404 Japan
 Access: 2 minutes walk from Hatsudai Station East Exit on the Keio New Line
 Inquiries: Toll-free Telephone 0120-144199 (Domestic only)



NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] は、日本の電話事業100周年(1990年)の記念事業として1997年4月19日、東京/西新宿・東京オペラシティタワーにオープンしたNTT 東日本が運営する文化施設です。ICCは「コミュニケーション」というテーマを軸に科学技術と芸術文化の対話を促進し、豊かな未来社会を構想していきます。

キュレーション：畠中実、谷口暁彦
 Curators: HATANAKA Minoru, TANIGUCHI Akihiko
 キュレトリアル・チーム：指吸保子、鹿島田知也
 Curatorial Team: YUBISUI Yasuko, KASHIMADA Tomoya
 ハイパー ICC 共同キュレーション：谷口暁彦
 Co-Curation for 'Hyper ICC': TANIGUCHI Akihiko
 監修・会場デザイン：NOIZ
 Supervisor/Space Design: NOIZ

1. 内田聖良《バーチャル供養堂》2022年
2. 佐藤瞭太郎《All Night》2022年
3. 柴田まお《Blue mask》2022年 | 撮影: Hayato Wakabayashi
4. たかはし遼平《並行植物調査》2021年 | 撮影: 竹久豊樹
5. 谷口暁彦《骰子一擲 / a throw of the dice》2018年
6. Total Refusal《How to Disappear》2020年
7. 藤原麻里菜《オンライン飲み会緊急脱出マシン》2020年



K22-03100 [2211-2303]